

吹田市の文化財が大阪・関西万博へ！ ～西奥町地車、権六おどりが出展・出演～

令和7年(2025年)4月13日から10月13日まで、「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」が開催されました。

同万博内で開催された大阪の魅力を発信するイベント「大阪ウィーク～春・夏・秋～」に、本市の指定文化財である西奥町地車及び地域文化財である権六おどりが、出展・出演しました。

ここでは、各文化財の概要と、出展・出演時の様子について、ご紹介させていただきます。



▲西奥町地車 展示の様子(5月9日)

吹田市指定有形民俗文化財 西奥町地車

高浜町に所在し、製作年代は不明ですが、一部に江戸時代の天保年間(1830～1843年)にさかのぼる古い部材が含まれており、古の姿を推量することのできる貴重な地車です。平成10年(1998年)9月30日に吹田市指定有形民俗文化財に指定されました。

市内では、他に6台の地車が市指定文化財となっており、現在も吹田だんじり祭などで曳行されています。

「大阪の祭!～EXPO 2025 春の陣～」に出展し、出展していただんじりなどの中でひとときわ古いものであったことから多くの方が関心を寄せていました。

吹田市地域無形民俗文化財 権六おどり

山田地域の盆踊りで、この地区にある円照寺を建築した権六という大工が、出来映えを見ようと手をかざしたり、後ずさったりした姿が踊りになったといわれています。

かつては北摂一帯で踊られていたとされ、ゆったりとしたテンポで、当時広く伝わっていた口説文句や音頭、振りを伝承している点が貴重です。平成10年9月30日に吹田市地域無形民俗文化財に登録されました。

「大阪の祭!～EXPO 2025 真夏の陣～」に出演し、山田地区権六おどり保存会、市内学生、一般公募による市民など約160名が、周囲の観客と一体になって踊りました。



▲権六おどり 実演の様子(7月28日)
(猪股 文京)

文化財保護の取り組み

文化財保護課では、文化財を保存し未来に継承するための様々な業務を行っています。

埋蔵文化財の調査

吹田市内には約 150 か所を超える遺跡（埋蔵文化財包蔵地）があります。遺跡は開発等の工事で壊され失われる可能性があるため、遺跡内において影響がありそうな工事では試掘調査や発掘調査を、直ちに影響がなさそうな工事では確認のため、立会を行っています。

令和 6 年度は確認調査 20 件、発掘調査 3 件、試掘調査 7 件、立会 136 件を実施しました。

史跡等の管理

国史跡七尾瓦窯跡・吉志部瓦窯跡、府史跡吉志部瓦窯跡（工房跡）、吹田須恵器窯跡 No.34 等公開地および雉子躰碑を管理しており、一般公開しています（常時見学可）。

また旧西尾家住宅及び旧中西家住宅の公開等の活用を行っています。（両住宅に関する取組の詳細は 6・7 ページに掲載）

文化財保存事業補助金の交付

令和 6 年度は市指定有形民俗文化財 2 件、市指定無形民俗文化財 1 件、市地域無形民俗文化財 4 件の保存事業に補助金を交付しました。

文化財の普及・啓発

令和 6 年度は「旗振り通信（千里山）推定地、垂水西原古墳」説明板を千里山西おおぞら遊園内（千里山西 3 丁目）に設置し、六地藏地車・西奥町地車説明板（高浜町）を修繕しました。また、発掘調査の成果報告として、『吹田操車場遺跡発掘調査報告書－吹田操車場遺跡第 7 次・第 9 次発掘調査－』を刊行しました。

（猪股 文京）



▲「旗振り通信（千里山）推定地、垂水西原古墳」説明板（新規設置）

背景左の丘が旗振り通信を行ったと伝わる場所、右側奥が垂水西原古墳の発見地点。

*新たに指定・登録された文化財

国指定重要文化財（建造物） 太陽の塔

昭和 45 年（1970 年）の日本万国博覧会で万博のテーマ「人類の進歩と調和」を表現する展示施設として、芸術家岡本太郎氏によってデザインされました。その独特な造形や計画を実現させるべく結集された当時最先端の技術、高度経済成長期の日本や万博を象徴する遺産であることが評価され、令和 2 年（2020 年）に国登録有形文化財（建造物）に登録、そして今回、令和 7 年 8 月 27 日付けで国の重要文化財として指定されました。

また、関連するものとして、万博記念公園事務所保管の竣工図 54 枚と太陽の塔内部の生命の樹 1 基も附指定されました。

大阪府登録有形文化財（歴史資料） 日本万国博覧会関係資料

昭和 45 年（1970 年）の日本万国博覧会の誘致から運営、跡地整備までの書類や記録、新聞の切り抜き等も含んだ一括資料群です。万博記念公園事務所に保管されています。

これにより、市内の国指定重要文化財は 5 件（建造物 2 件、美術工芸品 3 件）、府登録有形文化財は 1 件となり、国・府・市の指定・登録文化財は合計 76 件となりました。

垂水南遺跡の発掘調査（垂水町3丁目）

垂水南遺跡は、垂水町2丁目・3丁目・江坂町1丁目一帯に広がる弥生時代から中世にかけての遺跡です。令和6年（2024年）9月と同年12月～令和7年（2025年）2月の2度に分けて調査を行いました。その結果、古墳時代から江戸時代にわたる3面の遺構面を検出し、土器や石製品・木製品など多くの遺物が出土しました。

第1面では、江戸時代の水田畦畔とこれに伴う杭列、溝、足跡群を検出しました。畦畔は長さ4m以上、幅94cmで、ほぼ東西方向に伸びていました。これは平安時代以降に吹田市西部から豊中市にかけて施行された豊嶋郡条里の方向とほぼ一致していました。水田面には、耕作に従事した人や牛などの足跡が多く残されていました。

第2面では、古墳時代後期（6世紀）のピット（小穴）、溝、杭などを検出し、多くの土師器・須恵器などの土器類や木製品が出土しました。ピットの中には、掘立柱建物の一部や柵に復元できるものもありました。また、木製品には、機織りで用いる木錘や、船をかたどった船形木製品も含まれていました。

第3面では、古墳時代前・中期（4～5世紀）の溝を検出しました。溝は長さ19.6m以上、最大幅4.8m、深さ42cmほどで南北方向に伸び、途中で東方向にも伸びていました。

この溝の中から、土師器高杯や須恵器甕が出土しました。溝の東岸肩には、自然木をパイプ状に割り貫いた木樋が据えられていました。木樋は杭などで固定されず、直接当時の生活面上に置かれており、この溝に水を送る導水施設の可能性があります。

（堀口 健二）



▲ 掘立柱建物と柵（第2面）



▲ 古墳時代の溝（第3面）



▲ 古墳時代の土器（第2・第3面）

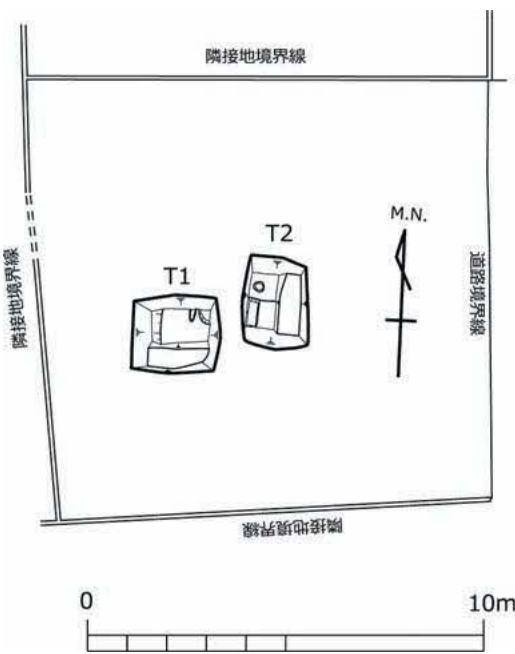
都呂須遺跡の発掘調査（内本町2丁目）

都呂須遺跡は、内本町2丁目に展開する弥生・古墳・平安・中世・近世の集落遺跡です。今回の調査は個人住宅建築工事に伴うもので、令和7年（2025年）2月に、遺跡の南側において実施しました。調査では地表下約0.3mから1.2mで近世の遺物を含む層が、地表下約1.3mで遺構（ピットや溝、土坑、落ち込み）が認められました。

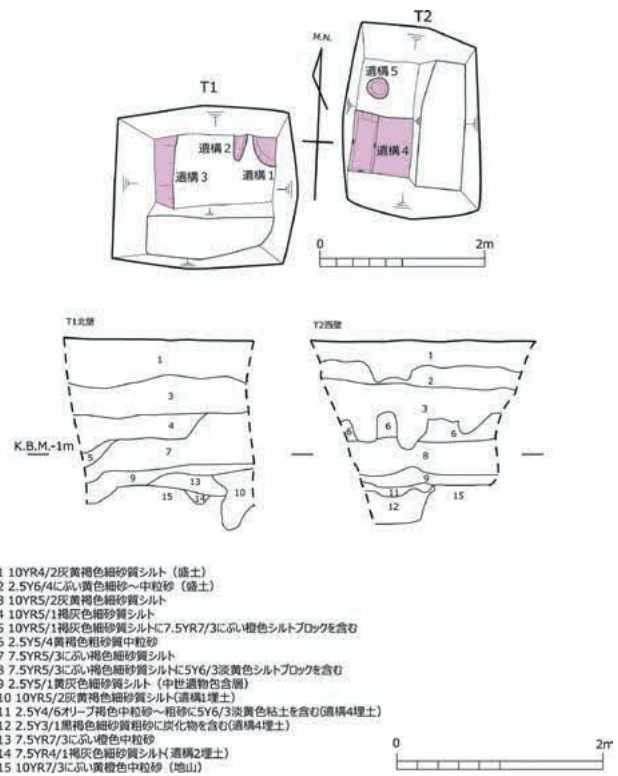
出土遺物は近世の層から近世の陶磁器や土製品が認められたほか、遺構からは土師器皿、瓦器碗、青磁など鎌倉時代のものが確認されました。

以上のとおり、当地で近世の遺物や中世の遺構と遺物が確認されたことから、当地に中世と近世の集落跡が展開していることを追認することができました。

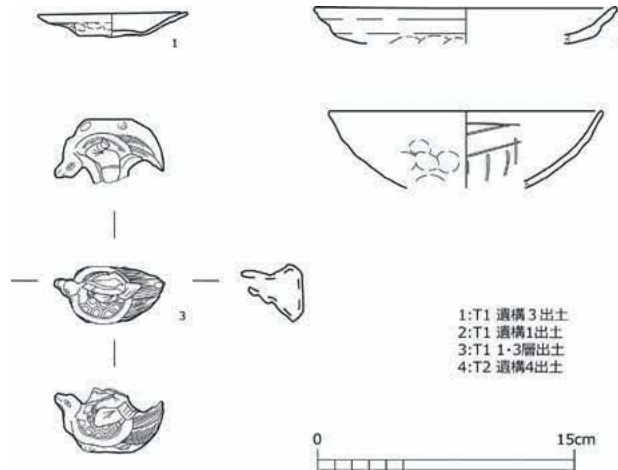
（片岡 啓）



▲ 調査区配置図



▲ 調査区平面図・断面図



▲ 出土遺物実測図

高城遺跡の発掘調査（昭和町）



▲ 遺構の検出状況（北西から）



▲ 遺構の検出状況（東から）



▲ 古墳時代の須恵器の出土状況（北から）

高城遺跡は、古墳時代から中世の集落遺跡です。平成4年度に実施した試掘調査で発見されました。その後に行われた発掘調査や工事での立会等によって^{たてあな}竪穴式建物跡、^{ほったてばしら}掘立柱建物と考えられる柱穴、溝跡などが発見されて徐々に範囲が広がり、現在では高城町・昭和町と広範囲に分布することがわかってきました。また、この高城遺跡周辺一帯には、^{たかぼたけ}高畑遺跡・^{たかぼたけ}高城B遺跡・昭和町遺跡・^{めだわら}目俵遺跡など多くの遺跡が密に分布している地域でもあります。

今回の調査地は、高城遺跡のなかでも北側に位置する地点に当たります。個人住宅の建築工事に伴い遺跡に影響が生じる部分において令和7年（2025年）9月に調査を実施しました。

調査では、地表面からの深さ約0.6mで地山と考えられる黄色の粘土層の堆積が確認され、その

上面からピット（小さな穴）36基、土坑6基、主に北東から南西方向に延びる溝7条と北北西から南南東方向に延びる^{すきみぞ}鋤溝と思われる溝2条を検出しました。これらの遺構内からは、古墳時代後期の土師器・須恵器もしくは主に平安時代後期の土師器・瓦器などの多数の遺物が出土したことから、今回検出した遺構はこれらの時期に展開していたものと考えられます。

この地域では各所で古墳時代の須恵器が多数出土しています。北側の千里丘陵には須恵器窯跡群があり古墳時代後期には須恵器が大量に生産されていたことから、この窯跡群と何らかの関わりのある集落の可能性も考えられます。また平安時代にはこの地域に清住寺領吹田東西庄などの荘園が成立していたことから、これらの荘園との関わりも想起されます。（田中 充徳）

旧西尾家住宅の保存修理・耐震対策工事について

～令和7年(2025年)の取組を中心に～

はじめに 吹田市が、文化財保護法に規定される管理団体として、保存のために必要な管理を行っている重要文化財(建造物)の旧西尾家住宅では、令和2年(2020年)度から国庫補助事業として保存修理・耐震対策工事を実施しています。

令和3年(2021年)度に外塀(鉄筋コンクリート塀)の部分修理・耐震対策工事が完了し、令和4年(2022年)度からは、I期工事として主屋、米蔵、納屋(米蔵北)、納屋(北東)、外塀(旧蔵納屋外壁)の工事を行っています。

工事の進捗状況 令和6年度(2024年度)までは、解体や解体に伴う調査を主に実施してきましたが、令和7年度(2025年度)からは、復旧の段階へと移っています。

令和6年度の工事の中で、主屋全体のジャッキアップを行い、耐震対策の一環として地下全域に鉄筋コンクリート基礎を設置する工事を実施しました。令和7年度に入り基礎石工事や柱等の補修が完了し、ジャッキダウン工事を行い、建物を元の位置に戻しました。

建物を地上に着地させる際には、多くの柱の下部に設けられたホゾ(突起)を、すべて礎石のホゾ穴にぴったり納まるようにする必要があり、加えて、長年にわたり建物に生じた不陸や歪みの修正のため、微調整を繰り返しながら、時間をかけて慎重に作業を行いました。

ジャッキダウン後は、耐震補強のための工事や、屋根や壁、床等の復旧工事を実施しています。米蔵においても、耐震補強工事や壁の復旧工事等を実施しています。

いずれの工事においても、文化財としての価値を損ねないように、各部材の形状や建物の状態等に合わせ、都度、調整や工事内容の見直しを行いながら、非常に多くの手間をかけて、作業を進めています。

修理工事現場見学会 一昨年度、昨年度に引き続いて、令和7年度も修理工事現場見学会を実施しました。I期工事の施工業者である株式会社中島工務店と、工事監理を行う一般財団法人建築研究協会のご協力のもと、生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪(イケフェス大阪)2025の参加イベントとして実施したもので、令和7年10月25日(土)・26日(日)の2日間で、72名の方のご参加がありました。

見学会では、写真パネルや映像設備も活用しながら、どのように工事が行われているのかについて、建築研究協会の方から説明を行っていただきました。受付の横に設けられた、仕口・継手の模型コーナーでは、棟梁が作製した精巧な模型に、多くの方が関心を抱いておられました。

今後の工事について 令和7年度末には、主屋と米蔵を覆っている素屋根を解体する予定です。素屋根の解体後も、引き続き復旧等の工事は続いていきます。

また、令和8年度(2026年度)からは、保存修理工事に併せて、防災施設の整備や修理後の公開活用に向けた整備工事も行っていく予定です。

これらの工事は、貴重な文化財を、適切に保存・活用しながら、後世へ引き継ぐために実施しているものです。

過去から未来へ確実にバトンをつなぐため、旧西尾家住宅の保存・活用の取組に対し、御理解と御協力のほどよろしくお願いいたします。

※これまでの工事について、詳しくは「重文旧西尾家住宅主屋ほか6棟建造物保存修理事業だより」をご覧ください。

(立岡 宏美)



▲主屋 計量部屋

ジャッキアップ状態で柱を根継作業中



▲主屋 大屋根棧瓦葺き完了

南面約 2/3 に古瓦を使用



▲主屋 台所

ジャッキアップ状態で柱を根継作業中



▲修理工事現場見学会の様子

旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）の 保存・活用の取組について

旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）は、建物が吹田市指定有形文化財・国登録有形文化財、庭園が国登録記念物（名勝地関係）となっています。

貴重な文化財として保存しながら、通年で一般公開を行っており、四季折々に変化する庭園や、江戸時代後期の^{おおじょうや}大庄屋の屋敷構え等の見学をお楽しみいただけます。

春と秋には特別公開を実施しており、普段は非公開の^{はな ざしき ふすま}離れ座敷の襖絵や茶室内部の公開、所蔵する美術品等の展示を行っています。

春・秋の特別公開 令和7年(2025年)4月1日(火)から9日(水)まで、春の特別公開を開催しました。今回の特別公開では、中西家と交流があったとされる大坂画壇の^{がだん}絵師・^{ながやまこういん}長山孔寅の絵画等、中西家ゆかりの文人たちの作品を展示しました。

また、11月22日(土)から30日(日)まで、庭園が紅葉に彩られる中、“中西家のお宝”をテ

マに、秋の特別公開を開催し、狩野派の掛軸等を展示しました。

ボランティアガイド 現在、11名の方が来館者への解説・案内ボランティアとして活動してくださっています。ガイドは随時募集していますので、ご興味のある方は同住宅までお問合せください。

(立岡 宏美)



▲令和7年 秋の特別公開の様子

特別企画「むかしのくらしと学校」展

イベントの案内

◆子供体験講座◆ 「ミニチュア銅鏡づくり」

日時/令和8年1月24日(土)
午前10時～12時
午後1時30分～3時30分
講師/博物館学芸員・博物館ボランティア
内容/五反島遺跡出土の銅鏡の3分の1ミニチュアを作ります。
場所/講座室
定員/午前・午後の部とも各10名
対象/小学3年生～中学生
※小学生は保護者同伴
申込/1月13日(火)必着

◆親子体験講座◆ 「昔のあかりと火おこし体験」

日時/令和8年3月1日(日)
午前10時～12時
講師/博物館学芸員・博物館ボランティア
内容/ろうそく、行灯、石油ランプなど、昔のあかりを学習し、火打ち石やまいぎり等の火おこしを体験します。
場所/講座室(火おこしは屋外)
定員/10組
対象/小学生・中学生・保護者
申込/2月17日(火)必着

◆子供体験講座◆ 「大昔のアクセサリー～まが玉づくり～」

日時/令和8年1月31日(土)
午前10時～12時
(受付開始は、午後9時30分から)
午後1時30分～3時30分
(受付開始は、午後1時から)
講師/博物館学芸員・博物館ボランティア
内容/ろう石を削ったり、磨いたりして大昔のアクセサリーまが玉を作ります。
場所/講座室
定員/午前・午後の部とも先着各40名
対象/小学生・中学生
※小学生は保護者同伴

ワークショップ 「人形劇とマリオネットあやつり講座」

日時/令和8年3月14日(土)
午後2時～3時30分
(受付開始は、午後1時30分から)
講師/山下恵子氏、柿本香苗氏、藤本真由美氏
内容/ミニ人形劇を見てマリオネットで遊びます。
場所/講座室
定員/20名
対象/小学生以上 ※小学生は保護者同伴
申込/3月3日(火)必着

◆子供体験講座◆ 「手づくりおもちゃ教室」

日時/令和8年2月22日(日)
午前10時～12時
午後1時30分～3時30分
講師/心ふれあいSA吹田おもちゃ部会の皆さん
内容/昔の遊び道具と牛乳パックや身の回りにある材料を使っておもちゃ作りをします。
場所/講座室
定員/午前・午後の部とも各20名
対象/5歳～中学生
申込/2月10日(火)必着

◆親子体験講座◆ 「昔は草木で染めたんだあー草木染め体験」

日時/令和8年3月15日(日)
午後2時～4時
講師/博物館ボランティア
内容/紫金山公園の自然の草木を使って色を取り出し、どのように染まるかを体験します。
場所/講座室
定員/20名
対象/小学生・中学生・保護者
申込/3月3日(火)必着

ワークショップ 「簡単マリオネット(あやつり人形)～作って遊ぼう～」

日時/令和8年2月28日(土)
午後1時30分～4時
(受付開始は、午後1時から)
講師/山下恵子氏、柿本香苗氏、藤本真由美氏
内容/紙コップとたこ糸で簡単なマリオネットを作って遊びます。
場所/講座室
定員/18名
対象/小学生以上 ※小学生は保護者同伴
申込/2月17日(火)必着

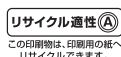
■■ 申込方法 ■■

はがきかFAXに、講座名、希望の時間帯、参加者全員(付き添いを含む)の名前(ふりがな)、郵便番号、住所、学年、電話番号を書いて博物館まで。吹田市役所ホームページの電子申込システム(12月1日から受付)からも応募できます。
※申込多数の場合は抽選になります。

【電子申し込み】はこちら▶



吹田市立博物館だより第104号
令和7年(2025年)12月26日発行 発行:吹田市立博物館
〒564-0001 吹田市岸部北4丁目10番1号
TEL 06(6338)5500 FAX 06(6338)9886
URL <https://www.city.suita.osaka.jp/museum/>



この冊子は1,500部作成し、1部あたりの単価は58.7円です。森林認証紙と植物油インキを使用しています。